

郷土愛通信

平成30年7月5日
第7号
郷土愛プロジェクト

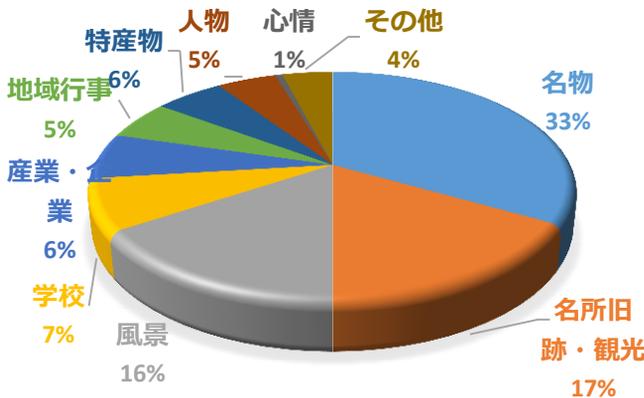
コーディネーター事業紹介

伊那中学校伊那谷学地域巡り学習（6月6日実施）

みなさんが上伊那の光をたくさん見つけてください。
みなさんが上伊那の光になってください。
それが上伊那の「観光」です。



授業の中で「上伊那といえば〇〇」という問いを実施しました。こんな面白い結果がありました。



ある調査データでは、「地域の大人と交流がある」と答えた中学生は、22.6%という調査結果が出ています。子どもたちはどのくらい自分の住む地域のことを知っているのでしょうか。

〈今どきの中学生！の上伊那観〉

上伊那といえば

一に名物

（ローメン・ソースカツ丼）

二に歴史・文化

（高遠城址公園・高遠の桜）

三に風景

（天竜川・アルプスの雄大な自然）

特産物ベスト1は、アルストロメリアでした。

生徒は、自分の住む地域を中心とした行動と情報の中が生活の中心になっているという実態もわかりました。

今回の伊那中学校の授業を通して、「生徒にもっと上伊那のことを知ってほしい、伝えなくては！」という思いになりました。

ごく少数の生徒が、上伊那人の人柄について書いていました。「賢明な人」「親切」「人のやさしさ」があげられ、データをまとめながら、子どもたちの気づきに、心はあっただくなりました。

伊那中学校1年生は、9月にこの学習をもとに、上伊那地域巡りを自分たちで企画し実施するそうです。まだ知らない上伊那にどれだけ出会え、どんな人と出会い、何を感じるのか……。楽しみです！



赤穂南小学校食育フェス（6月12日実施）

赤穂南小学校では、給食週間に合わせて「食」をテーマに、日頃給食に食材を提供している事業所、日常生活にかかわるお茶の入れ方・お箸検定、「食と歯の健康」、駒ヶ根の特産品や地産食材など多様な内容で、全校児童対象に、駒ヶ根市教育委員会の全面協力で、食育フェスが開催されました。



子どもたちにとって『「食」は生活の基本、人づくりの基本』という考えのもとに、テーマを「食」に絞ったキャリアフェスの開催が大変勉強になりました。

普段、お家でお茶を入れてもらって飲む習慣の少ない児童は、入れていただいた煎茶を「おいしい」と何度もつぶやきながらいただいていた。「ぼくね、お家に帰ってママにお茶を入れてあげる！」の声も聞かれました。いつも給食にお魚を入れてくださっている「ヒラサワ」さんは、「子どもたちは、切り身でしか魚をみたことがないだろう」と、冷凍でさまざまな魚を丸ごと展示していただきました。いなだの解体ショーでは、子どもたちがみごとな手さばきに釘付けでした。

食育フェスの内容も「食べること」「比べること」「異文化地域の食べ物」「地域の食材・特産物」「歯の健康」「食にかかわる本の読み聞かせ」「給食センターのお仕事」等々、多岐にわたり多彩な出展でした。

出展していただいた方々も、朝5時から草餅づくりやこんにやく作りをし、自然の恵みのありがたさを伝えてくれた方々や、この日の為にイチゴを冷凍にして保存してくれたり、駒ヶ根産のごまと外国産との違いを舌で味わわせてくれたりと、地産の農産物のおいしさや良さを伝えてくださり、次代を担う子どもに精いっぱい心づくしをしてくださった出展の方々の心に打たれました。きっと子どもたちにも通じたことと思います。

子どもたちは、さまざまな出展から、食への関心を深め、また自分の食生活の見直しにもつながったことと思います。まさに『食は生活の基本！人づくりの基本！』を物語る食育フェスでした。

【お知らせ】キャリア教育授業紹介

(1) 伊那北高等学校「こんにちは先輩」 7月6日(金) 午後1時30分～3時30分
地域で活躍する先輩が、自分の生き方や地域貢献のあり方について話します。

(2) 伊那西高等学校「キャリアフェス」7月12日(木) 午後1時～2時50分
上伊那の14事業所が女性の活躍できる働き場所を紹介し、自分の特技ややってみたいことと将来のしごとを生徒自身がつなげて考えてみます。